

新型コロナウイルス感染症対策本部（第1回）

議事概要

1 日時

令和2年1月30日（木）12時00分～12時10分

2 場所

院内 大臣室

3 出席者

内閣総理大臣 安倍 晋三

副総理，財務大臣，内閣府特命担当大臣 麻生 太郎

総務大臣，内閣府特命担当大臣 高市 早苗

法務大臣 森 まさこ

外務大臣 茂木 敏充

文部科学大臣 萩生田 光一

厚生労働大臣 加藤 勝信

農林水産大臣 江藤 拓

経済産業大臣，内閣府特命担当大臣 梶山 弘志

国土交通大臣 赤羽 一嘉

環境大臣，内閣府特命担当大臣 小泉 進次郎

防衛大臣 河野 太郎

内閣官房長官 菅 義偉

復興大臣 田中 和徳

国家公安委員会委員長，内閣府特命担当大臣 武田 良太

内閣府特命担当大臣 衛藤 晟一

内閣府特命担当大臣 竹本 直一

内閣府特命担当大臣 西村 康稔

内閣府特命担当大臣 北村 誠吾

東京オリンピック・パラリンピック担当大臣、内閣府特命担当大臣 橋本 聖子

内閣官房副長官 西村 明宏

内閣官房副長官 杉田 和博

内閣総理大臣補佐官 木原 稔

内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人

内閣総理大臣補佐官 長谷川 榮一

内閣危機管理監 沖田 芳樹

国家安全保障局長 北村 滋

内閣官房副長官補 古谷 一之

内閣官房副長官補 前田 哲

4 議事概要

【厚生労働大臣】

新型コロナウイルスによる感染状況については、本日9時時点で、中国において約7,711名の患者が確認されており、そのうち170名が亡くなっているほか、日本においても9名の患者と2名の無症状病原体保有者が確認されています。日本の2名の患者は武漢市に滞在歴はなく、1月に2回にわたり、武漢からのツアー客をバスに乗せていた方です。合計11名の患者等について、濃厚接触者の把握を含めた積極的疫学調査を確実に行ってまいります。

また、政府のチャーター機により、武漢市等から、昨日206名、本日210名の邦人の方々が帰国され、本日帰国された方々の中には、呼吸器症状等の症状があった方が13名いらっしゃったと承知しております。呼吸器症状等があった方は、東京都の医療機関を受診していただき、新型コロナウイルス検査を受けていただいています。症状がない方についても、患者が急増している地域からの入国であることを踏まえ、ご本人が安心して通常の生活を送ることができるよう、国立国際医療研究センターにおいて、健康状態を確認するとともに、新型コロナウイルス検査を受けていただいています。その結果、昨日武漢市からのチャーター便により帰国された邦人については、1名の患者、2名の無症状病原体保有者が確認されました。これらの方については、濃厚接触者の把握を含めた積極的疫学調査を確実に行ってまいります。また、検査結果が陰性の方も、今後、症状が現れる可能性も否定できないことから、安心のために、引き続き、最大限2週間ホテルに滞在いただくようお願いしております。

厚生労働省においては、これまで省内関係部局の連携体制を構築し、水際対策と感染症対策に取り組んできましたが、一昨日、私を本部長とする対策推進本部へと拡充し、さらに対策を強化しております。具体的には、昨日、厚生労働省に「健康フォローアップセンター」を設置しました。武漢市からのチャーター便により帰国された邦人に加え、中国からの全便について、武漢市等に滞在歴があって日本に入国される方々に質問票を配付し、武漢市等の滞在歴や有症者との接触歴等を把握した上で、このセンターが自治体等と連携し、電話等により、健康状態のフォローアップを継続して実施していきます。

また、国民の皆様の不安に丁寧にお答えするため、一昨日からコールセンターを設置し、週末や祝日を含め、毎日9時から21時まで、お問い合わせに対応しております。設置した28日は18時からの対応開始でしたが99件、29日は250件のお問い合わせがありました。

厚生労働省としては、①我が国において、ヒトからヒトへの感染が認められたが、現時点では広く流行が認められている状況ではないこと、②国民の皆様におかれては、過剰に心配することなく季節性インフルエンザと同様に咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策に努めていただくようお願いしたいことなどを、丁寧に発信してまいります。

感染症への対応にあたっては、常に様々な展開を想定し、事態の悪化にも備えながら先手、先手で対策を講じていくことが必要です。日本時間の明日未明、再度WHOの

緊急委員会が招集されると承知しておりますが、その動向も注視しつつ、引き続き、水際対策と国内の感染拡大防止に、厚生労働省一丸となって取り組み、国民の皆様の安全・安心の確保に万全を期してまいります。

【外務大臣】

外務省では、先週、対策室を立ち上げ、省をあげて邦人の安全確保及び早期帰国に向け、関係省庁と連携して取り組んでいます。また、在中国日本国大使館では、先週末、横井大使をヘッドとする対策本部が対応に当たっています。27日から、医務官や中国語話者の館員を含む同大使館職員10名が1200kmを17時間かけ武漢市に入り、中国当局と連携しつつ全力で邦人退避に従事しています。

在留邦人や海外渡航者に対する適時適切な情報発信・注意喚起にも努めており、先週金曜日24日には武漢市を含む湖北省全域に感染症危険情報レベル3（渡航中止勧告）を発出しました。26日には、私自身、中国の王毅国務委員と電話会談を行い、邦人の安全確保及び帰国を希望する邦人全員の帰国への支援を要請し、理解を得、調整を進めることとしました。

今朝までに、2機のチャーター機により計416人が帰国しました。また、同機は、中国の方々と湖北省に在留する邦人に対して現地で不足しているマスクや防護服等の支援物資を届け、これは世界各国最初の支援であり、中国側から感謝の意が示されています。

引き続き、帰国を希望される方々全員が早急に帰国できるよう、中国政府、関係省庁と緊密に連携していきます。

【内閣総理大臣】

新型コロナウイルスによる感染状況については、我が国でも、昨日までに武漢滞在歴がない患者が2名報告されており、その方を含め8名の患者が確認されています。加えて、昨日、帰国された方のうち、3名の方がウイルス検査の結果、陽性であったことが確認されました。現在、専門の医療機関において、入院・治療に当たっています。今回、このうちお二人の方は、無症状でありました。無症状であるにもかかわらず陽性反応が出たということ踏まえれば、これまで実施してきた水際対策などのフェーズを、もう一段引き上げていく必要があります。

感染拡大防止のため、これまでのサーベイランスの考え方に捉われることなく、あらゆる措置を講じてまいります。武漢市などに滞在歴がある全ての入国者を対象として、症状の有無に関係なく、日本国内での連絡先等を確認し、健康状態をフォローアップする仕組みを導入します。

今後も、今回のウイルスの特性をしっかりと踏まえながら、感染拡大の防止を何よりも第一に、事態の推移を十分に注視しながら、これまでの発想に捉われることなく、柔軟かつ機動的な対策を講じてまいります。

本日も、210名の日本人の方々が、武漢から帰国されました。残りの希望者全員の確実な帰国に向けて引き続き取り組むとともに、帰国者の皆さんの健康管理に、引き

続き万全を期してまいります。症状の有無に関係なく、ウイルス検査を含む健康管理を徹底し、その間の宿泊のため、国の研修所などの施設を全面的に提供することといたします。その場に滞在していただきながら、お一人お一人の健康状態をしっかりと確認してまいります。災害時のDMAT（災害派遣医療チーム）の仕組みも活用し、そのために必要となる医師の派遣も迅速に行ってください。

各閣僚におかれては、本対策本部の下、これらの取組を連携して速やかに実施してください。今後とも、情勢変化を踏まえながら政府一丸となって、何よりも国民の命と健康を守ることを最優先にやるべき対策を躊躇なく決断し実行してください。

以 上